

南船
北に
に乗
って
市糴
する。

千余里で対馬国に至る。
その大官を卑狗といい、
副を卑奴母離という。
住んで居る所は絶島で、

方四百余里ばかり。土地は山険しく深林多く、
道路は禽鹿の道の如し。

千余戸有り、良田無く、海の物を食べて自活し、
船に乗って南北に市糴する。

又南に一海を渡ること千余里、名づけて瀚海という。

一大國に至る。官をまた卑狗といい、副を卑奴母離という。

方三百里ばかり。竹木叢林多く、三千ばかりの家有り。

やや田地有り、田を耕せど、なお食足らず、

また南北に市糴す。また一海を渡る千余里、末盧国に至る。

四千余戸あり。山海に浜ている。草木茂盛し、行く前人を見ず。

好んで魚鱈を捕らえ、水深浅となく、皆沈没してこれを取る。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789:;<=>?@!"#\$%&'()*+,-.